

2021年3月9日

報道関係者各位

慶應義塾大学 SFC 研究所

## 全ての人を読める電子書籍を イタリア LIA 財団と慶應義塾大学 SFC 研究所が連携し 日本の出版界にアクセシビリティの種を撒くウェビナーを 2/18 開催

慶應義塾大学 SFC 研究所で出版における技術標準とソフトウェア開発を推進しているアドバンスド・パブリッシング・ラボ (APL) とイタリアの LIA 財団 (Libri Italiani Accessibili) との間で締結された協定により、“E-books for all: towards an accessible publishing ecosystem” (以下「ホワイトペーパー」※1) が翻訳され、日本で公開されることになりました。これに関連し、ウェビナー「すべての人のための電子書籍 アクセス可能電子出版のエコシステムを目指して」(2月18日)を開催しました。

LIA 財団はイタリア視覚障害者連合 (UICI) とイタリア出版社協会 (AIE) の協力によって設立された非営利団体で、出版社以外にも教育関係団体や図書館関係団体などが参加しています。

### 本の文化を全ての人に

2月18日に開催された今回のウェビナーは、EUで「すべての人が本の文化の恵みを楽しむ社会の実現」を目指した「視覚障害者の読書環境の整備の推進に関する法律 2019年版 (通称『EU アクセシビリティ・アクト』)」が施行されたことを受け、日本の書籍出版業界でもアクセシビリティの重要性についての認識を向上させる活動の第一弾として開催されました。ウェビナーには SFC 研究所 APL の外部協力組織以外の出版社、印刷会社、電子流通、読書関連ソフトウェア制作などの企業や業界団体、視覚障害者支援組織、図書館関係者を含むさまざまな方々が参加しました。ウェビナーでは LIA 財団の専門家による詳細な法的・技術的解説と、出版エコシステムのアクセシビリティに対する、出版のバリューチェーンを構成する各関係者の責任についての概要が説明されました。

「慶應義塾大学 SFC 研究所アドバンスド・パブリッシング・ラボとのコラボレーションは、アクセシビリティというテーマが世界的に注目されていることの表れです。社会に本当の意味でインパクトを与えるためには、出版業界に限らずさまざまな関係者とコラボレーションをして相乗効果を生む事が不可欠です。イタリアの LIA 財団の経験は、アクセシビリティを受け入れようとする他の国の模範となるでしょう」と LIA 財団事務局長のクリスティーナ・ムッシネッリはウェビナー終了後に語りました。

#### ※1

2020年11月に英語で初版が発行された「ホワイトペーパー」は、アクセシブルなデジタル出版のエコシステムの一翼を担うことに関心を持つ、すべての出版関連企業に有益な情報を提供し、コンテンツ制作者、流通業者、オンラインストア、読書用ソフトやアプリ開発者の役割と責任を分析・詳述しています。

この「ホワイトペーパー」は LIA 財団の国際的な経験から生まれたものです。LIA 財団は、W3C、DAISY コンソーシアム、ISO、EDRLab など、アクセシブルなデジタル出版物の制作のための標準規格を策定

することに注力してきた各種の国際標準化組織や研究グループの活動に長年にわたって参画してきました。またイタリアの出版社 76 社とのコラボレーションの結果として、現在では 26,000 冊以上のアクセシブルな作品を含む「ボーン・アクセシブルな電子書籍」の LIA サイトを日々充実させています。

(ウェビナー及び「ホワイトペーパー」・リンク先 <https://www.aplab.jp/lia> )



※本プレスリリースは、新聞各社社会部等に配信しております。

---

**【本件についてのお問合せ先】**

慶應義塾大学 SFC 研究所 アドバンスド・パブリッシング・ラボ

U R L : <https://www.aplab.jp/>

E-mail: [naomiyo@sfc.keio.ac.jp](mailto:naomiyo@sfc.keio.ac.jp)

**【配信元】**

慶應義塾大学 湘南藤沢事務室 学術研究支援担当

E-mail: [kri-pr@sfc.keio.ac.jp](mailto:kri-pr@sfc.keio.ac.jp)

T E L : 0466-49-3436

F A X : 0466-49-3594